

「TURN」平成 31 (2019) 年度事業一覧

※事業内容等は、やむを得ない事情により変更になる場合がございます。

1. TURN 交流プログラム

アーティストが、福祉施設や社会的支援を必要とする人の集うコミュニティへ赴き、その場所を利用する人や支援者等と共働活動を行います。



森山開次と金町学園



伊勢克也とももの会



セピーデ・ハセミとアトリエ・エー

※プログラムの様子は、TURN 公式ウェブサイトのタイムラインでご覧いただけます。

2. TURN LAND

TURN を日常的に実践する場「TURN LAND」を展開します。

交流先施設の LAND 化

福祉施設やコミュニティが、アーティストとともに市民も参加可能なプログラムを企画します。従来のケアや支援の機能を持った場所に、市民が集まることのできる地域にひらかれた文化施設としての役割を加えます。



ハーモニー



クラフト工房 La Mano



板橋区立小茂根福祉園

TURN LAND(田無)

アーティストと交流先施設のメンバーや社会的支援を必要とする人、地域住民等が集まり、TURN の活動を実践できる第三の場として、東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構の圃場を拠点に展開。農園活動とアートを織り交ぜた工夫に満ちたプログラムの実践を通して異なる他者との関係性を構築し、多様な人が集まり交流するダイバーシティの新しいプラットフォームを見出します。



TURN 運営本部

NPO を中心とする事務所機能と、「TURN」の運営を補助する「サポーター」を多く輩出できるよう、研究会や研修プログラム等も実施する情報発信のハブ機能を担います。

※開催日・プログラムの詳細は随時 TURN 公式ウェブサイトにアップいたします。

3. TURN フェス5

上野の東京都美術館を会場に、各地で開催している「TURN 交流プログラム」や「TURN LAND」等が一堂に会します。作品展示やワークショップ、トークイベントやオリジナルプログラム等の実施を通して、TURN の理念を体感する空間、アクセシビリティやダイバーシティに関する理解を深める機会をつくれます。

開催概要

- ・会 期:2019年8月16日(金)~18日(日)、20日(火)
- ・開 室 時 間:16日9:30~21:00、17日・18日・20日9:30~17:30(入室は閉室の30分前まで)
- ・会 場:東京都美術館 ロビー階 第1・第2 公募展示室 (東京都台東区上野公園 8-36)



TURN フェス4会場風景
会場入り口



TURN フェス4会場風景
伊勢克也・岡本智美ほか
《共生するアトリエ》



TURN フェス4会場風景
大西健太郎と板橋区立小茂根福祉園

※プログラム詳細については別途発表します。

4. TURN ミーティング

「TURN ミーティング」は、TURN を共有し、意見交換する開かれた場です。参加アーティストや交流先メンバーなど関係者とともに、スペシャルゲストを招いたトークやTURNについてのディスカッション等を繰り広げます。

開催概要

- ・日 程:第8回 2019年5月12日(日)
第9回 2019年11月17日(日)
第10回 2020年2月2日(日)
- ・会 場:東京藝術大学(東京都台東区上野公園12-8) ※会場は変更になる場合がございます。



第4回TURN ミーティング (2018年1月)



第5回TURN ミーティング (2018年5月)



第7回TURN ミーティング (2019年2月)

※プログラム詳細については別途発表します。

5. 海外展開

東京藝術大学及び国内外の文化芸術機関等と連携し、海外でも TURN を展開します。平成 31(2019)年度はキューバ、アルゼンチン、ポーランド、台湾など複数の国での実施を予定しています。日本及び現地を活動拠点とするアーティストらが「交流プログラム」を実施し、プロセスを通して生まれた作品の展示やワークショップによって発表します。国内では、その様子を「TURN フェス5」などで紹介します。



TURN in BIENALSUR (2017年)
アレハンドラ・ミスライ
[アルゼンチン、ペルー]



TURN - LA TOLA (2018年)
小野龍一
[エクアドル]



TURN - LA TOLA (2018年)
大西健太郎
[エクアドル]

6. 広報・ドキュメント

「TURN」の活動をことばに綴る「TURN NOTE」、「TURN」を多角的に集録する「TURN ジャーナル」を制作、発行します。また、公式ウェブサイトや SNS を通して、「TURN」を積極的に発信していきます。

■ TURN とは

TURN とは、障害の有無、世代、性、国籍、住環境などの背景や習慣の違いを超えた多様な人々の出会いによる相互作用を、表現として生み出すアートプロジェクト。アーティストの日比野克彦監修のもと、東京 2020 大会の文化プログラムを先導するリーディングプロジェクトとして平成 27(2015)年度に始動した。平成 29(2017)年度からはオリンピック・パラリンピックの東京 2020 公認文化オリンピアドとして事業を実施。様々な分野の機関と連携・協力してプログラムを展開していくことで、一人ひとりが異なる“その人らしさ”を尊重できる関係性のある豊かな社会の創造を目指している。そして、日本における新しいダイバーシティの試みとして国内外へ発信するとともに、「TURN」の考え方や仕組み、場をレガシーとして継承していく。

<http://turn-project.com>